

『一心千里』

永田 隆一

走って見れば、

見えてくる



第18回

『アイキャンナットリブユアラライフ』

子どもは無心で蝶々やトンボを追う

造業の海外進出、③企業数の減少、④学生の就職難、⑤少子高齢化、⑥慢性的な税収不足。

アップサイドは、①清潔な国、②安全な国、③四季に恵まれた国、④恵まれたインフラ、⑤きれいな空、⑥美味しい食事の国。

『肩の力を抜いた戦略』

食べていけないから結婚する。子供は、自分の食い扶持を持って生まれてくる。かつての日本では、皆、本気でそう考えていた。

『一期は夢ただ狂え』

「I can not live your」

母(私は、あなたの人生を生きることができない)」。アメリカで父親

す。しかし、社会に出て「あれは駄目、これも駄目。こつしなさい、ああしなさい」と先輩から言われて、気が付けば蝶々やトンボを追わなくなっ

てしまします。だいたい、そういうアドバイスをする先輩というのは「いいとこのほんほん(坊ちゃん)」と言われておりま

は夢よ、ただ狂え」であります。ひとの一生は、夢のように短いものとするれば、自分の好きなことに、狂うほどに熱中することのほうが大切なのかもしれません。

『日本人は自らを』

現在、世界が、日本が、大きく対流を起してお

閉じて情報を遮断して、自分との対話に時間をさくべきでございます。

①気魄を持って自らをたのむ、②肩の力を抜いて自分の人生を見つめ直す、③自分の将来のビジョンのために自分を律する。

そして、自らが自らの執事か家政婦として、用心深く、しかし、冒険心を持ち、多少軽はずみでもよいから行動に移してまいります。

(毎月掲載)

2011年の幕開けです。政治・経済・外交など、間違いなく「激動のディケード(Decade)の始まりです。次のDecadeまでの10年間に、何が起ころう。何をしなければならぬのだろう。その前に、自分は何をしたいのだろう……。

『ルールが変わった』

「ルールが変わった」

「高成長を謳歌する新興」と、苦悩する先進国」という鮮明な対比を生み出しています。日本の政治家は、このルールの変化に真摯に向き合うこと

者が広く深く学んで自国を富ませる努力を継続、③技術進歩と国際化により、アイデアと資金が揃えば、外国からほとんどの物が調達可能になった。

直感に頼ります。かたや、このルールを味方につけて「直観」で高成長を続けているのが新興国です。直感に頼ります。かたや、このルールを味方につけて「直観」で高成長を続けているのが新興国です。

さて、肩の力を抜いて、楽に考えてみますと、①海外で儲ける。しかし「世界経済に国境なし、されど我が故郷(日本)あり」、②仕事は我慢。しかし「あるポイントまで我慢したら、オールリセットをかけるオプションをもつ」、③結婚し、子供を持つ。「二人では

・母親が子供にこの言葉を贈ります。「あなたの人生を生きることができないのは、あなただけです。自分らしく、自分の人生を生きてください」という、子供への愛情からの応援であります。

す。ちょっと足りない方々です。そついった方々からの教育で、気がつけば「自分らしい、自分の人生」から、程遠い生き方をしている場合が多くなつてしまつてます。

「I can not live your life」です。自分の一回しかない人生です。「一期(いちご)